



図 13: 受講歴に関連した負担の程度

非常に負担を感じると思う理由：【      】  
 いくらか負担を感じると思う理由：【      】  
 少し負担を感じると思う理由：【      】  
 あまり負担を感じないと思う理由：【      】  
 全く負担を感じないと思う理由：【      】

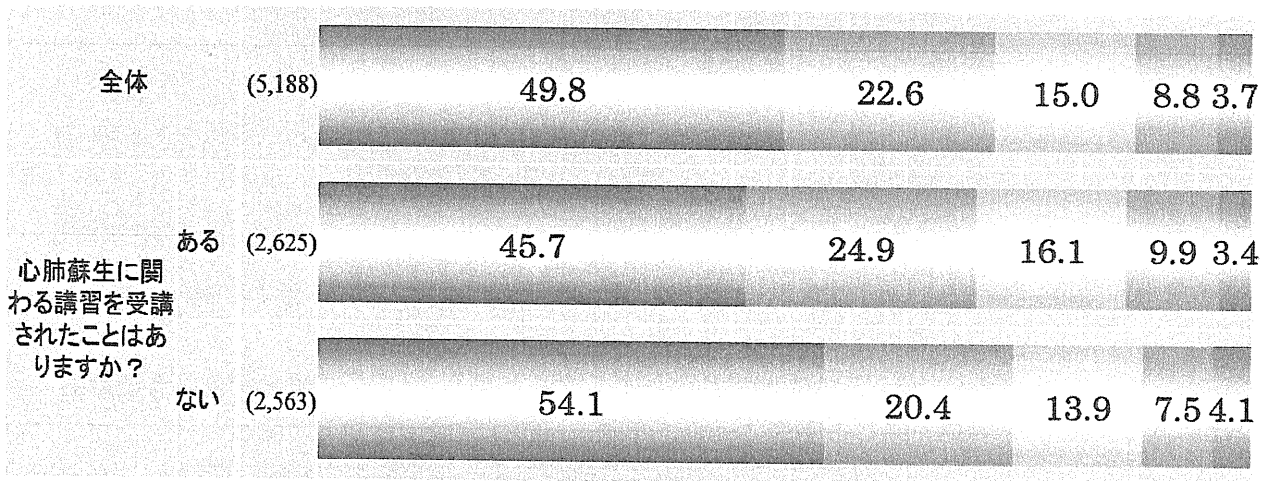
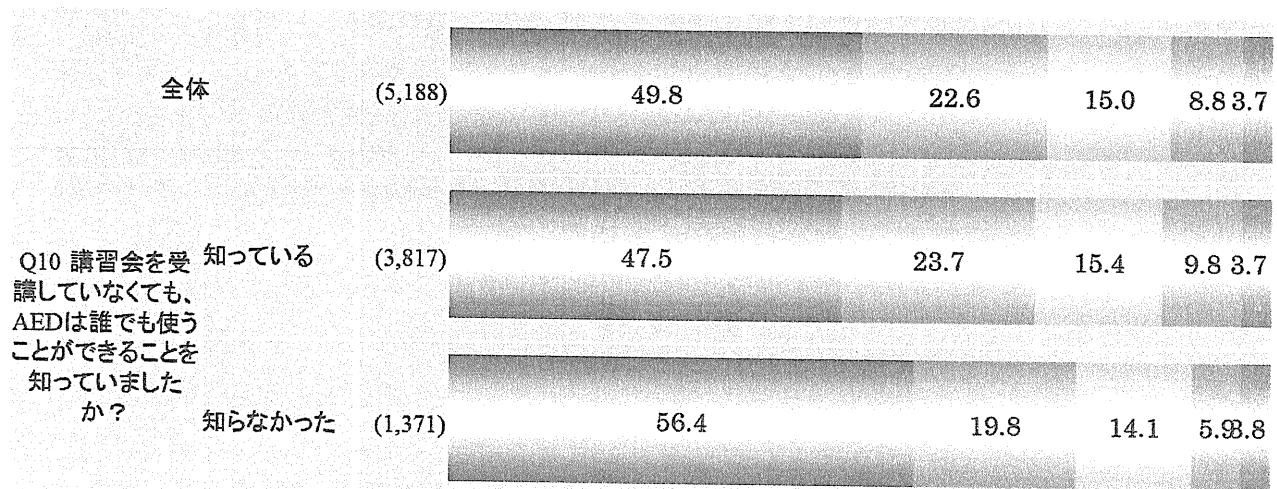


図 14: AED を誰でも使っていることの既知に関連した負担の程度

非常に負担を感じると思う理由：【      】  
 いくらか負担を感じると思う理由：【      】  
 少し負担を感じると思う理由：【      】  
 あまり負担を感じないと思う理由：【      】  
 全く負担を感じないと思う理由：【      】



平成23年度厚生労働科学研究費補助金  
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業  
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究  
(H21-心筋-一般-001)  
(研究代表者 丸川 征四郎)

平成 23 年度報告

分担研究報告

救急蘇生法の普及啓発に有用な教育ツールと教育研修プログラムの開発

研究分担者 長谷 敦子  
長崎大学病院救命救急センター 准教授

平成 24(2012)年 3 月

## 目 次

1. 研究者名簿	3
2. 分担研究報告書	
研究要旨	4
A. 研究目的	4
B. 研究方法	4
C. 研究結果	5
D. 考察	5
E. 結論	5
F. 健康危険情報	6
G. 研究発表	6
H. 知的財産権の出願、登録情報	6
3. 資料	
資料1 AED 普及用絵本 小学生のアンケート調査	
資料2 中学生への AED・蘇生講習会	
資料3 第6回 日本学生 ALS 大会報告書	

## 研究者名簿

研究分担者	長谷 敦子	長崎大学病院救命救急センター
研究協力者	山下 和範	長崎大学病院救命救急センター
	坂本 哲也	帝京大学医学部附属病院救命救急センター
	畑中 哲生	救急救命九州研修所
	清水 直樹	東京都立小児総合医療センター
	丸川征四郎	医療法人医誠会 医誠会病院

## 救急蘇生法の普及啓発に有用な教育ツールと教育研修プログラムの開発

長谷 敦子\*<sup>1</sup>、山下 和範\*<sup>1</sup>、坂本 哲也\*<sup>2</sup>、畑中 哲生\*<sup>3</sup>、清水 直樹\*<sup>4</sup>、丸川 征四郎\*<sup>5</sup>

長崎大学病院救命救急センター\*<sup>1</sup>、帝京大学医学部付属病院救命救急センター\*<sup>2</sup>、救急救命九州研修所\*<sup>3</sup>、東京都立小児総合医療センター\*<sup>4</sup>、医療法人医誠会医誠会病院\*<sup>5</sup>

**研究要旨：** 本研究は、これまで研究班で作成したAED啓発アニメーションから書き起こした絵本を小学生に読ませ、心肺蘇生法を学ぶ下地作りに効果があるか評価することを目的とした。昨年度、全校生徒対象の心肺蘇生の講習会を行った中学生に対して、7月1日の「AEDの日」を広めるために再び講習会を行い、意見を募った。また医学生が小中学生への蘇生授業や市民の講習会の講師となる方策を探った。

今回の研究で、小学生に蘇生に関する絵本を読ませるだけでも、蘇生行為に対する意識が高まることがわかった。蘇生の授業を受けた生徒と比較すると、授業はさらに効果的であることから、蘇生の授業を行える環境が整うまで絵本を配布して読ませ、蘇生に対する意欲の下地作り教育の実施が望まれる。中学生に対する蘇生講習会を「AEDの日」の意味づけと共に行うと、毎年の受講を積極的に行う事がわかり、蘇生教育のモチベーションの維持として、「AEDの日」を契機として毎年の受講を行うことの意義が見いだせた。医学生が救急蘇生法の講師を務める事は、学校教育現場への関わりと医学教育の観点からも相互利益が多く、双方の授業のカリキュラムに組み入れることは意義がある。救急蘇生に深い関心を持つ医系大学生による第6回日本学生ALS大会では、より科学的な取り組みの重要性が認識され、市民への心肺蘇生法の普及の意義と方法について検討した。

### A. 研究目的

昨年度までに、我々が作成したAED啓発アニメーション（AED アニメ）と簡易型蘇生人形を組み合わせ、小学生に対して効果的な教育法の確立と普及体制を構築することを目的として研究を行った。その結果、小・中学生が蘇生を学ぶに際しては、講習に先立って我々が作成したAEDアニメを視聴することが効果的であることがわかった。これは“なぜ市民が蘇生法を学ばなければならないか？”という事を理解することが学習効果を左右する重要な要因であることを示唆している。さらに医学生が講師を務める事は十分に可能で双方にとって有用と考えられたが、医学生が積極的に参加できる環境作りが問題であった。

そこで本年度は、AEDアニメから書き起こした絵本（AED絵本）を読ませることで、心肺蘇生に対する意識高揚にどの程度効果があるか評価することを目的とした。また7月1日を「AEDの日」とし、平成22年度にも蘇生講習会を行った中学校で全校生徒に対する心肺蘇生講習会を行い、生徒、教師、保護者の意見を集め、継続的な蘇生講習会の在り方をさぐることを目的とした。また講師として参加した長崎大学医学部学生の救急医療研究サークル（FLAN）を中心に、市民への蘇生講習会を自発的に開催する活動を行うことを支援しながら、医学生が講師となる方策を探ることを目的とした。

## B. 研究方法

①平成23年12月12日～20日、福岡県小郡市立のぞみが丘小学校の4年生、5年生、6年生の計658名に対して、AED 絵本を読んだからアンケートを行った群と、AED 絵本を読む前にアンケートを行った群にわけて、調査をした。アンケートは、本研究で平成20年度に小学生を対象としたものと同じとした(資料1-①)。

②平成23年6月27日、昨年度も蘇生の講習会を行った長崎市立江平中学校全校生徒、教師、保護者に対し、医学生9名、救急救命士1名、医師1名の11名で、90分間の心肺蘇生の講習会を体育館で行った。突然の心停止で娘を失った母親を題材とした YouTube 動画と蘇生 DVD の視聴、スライドを使ったバイスタンダー CPR の重要性についての講義を合わせて30分間で行ったあと、生徒3名に1体、保護者4名に1体のミニアンを配布し、60分間の実技を行った。

③②の講師をした長崎大学医学部学生の救急医療研究サークル (FLAN) の活動として、年度計画としては、市民を対象に成人・小児・乳児の BLS、窒息解除 (FBAO) の手技の教育を行うことができるインストラクターの養成と、講習会の開催のノウハウを学ぶ勉強会を開催した。さらに平成24年3月1日に幕張メッセで開催された第6回日本学生 ALS 大会が開催され、発表を行った。

## C. 研究結果

① アンケートの回収は、658名中、639名であった。結果としては、119番コールと大人を呼びに行くという行動は、どちらも約9割に達しており、小学生でも自分ができることをしようとする意識が高いことがわかった。それに比べて、AED を探す、使うという行為は、絵本を読んだ群が読まない群に比べて、各学年とも約2倍多く、胸骨圧迫をすることに関しては、学年が長じるにつれて

多くなり、6年生では約3倍多かった。また、“何もしない”と答えた生徒は、絵本を読まない群では各学年に3%程度いたのに対し、読んだ群では、5年生のみに6名いた。この結果は、平成20年度に施行した蘇生授業を行った生徒と行わなかった生徒で行った研究結果と比べて同様の傾向を示している(資料②-3)。ただ授業を行った生徒のほうが、各数値が高かった。さらに、何もしないと答える生徒が、蘇生に関する授業や絵本を読まない群に3%程度存在した。

② 中学生への90分間の蘇生講習会のあと、学校が行ったアンケート調査によると、AED の日にちなんでも毎年講習を受ける事に対して、生徒、教師、保護者の全が有意義とした(資料2)。

③ 平成23年11月3日に、長崎大学医学部基礎棟第一実習室で、救急医療研究サークル (FLAN) は受講者 (学生) 12名に対し学生インストラクター27名によって、長崎大学学内 BLS ワークショップを行い、インストラクター養成・インストラクターのスキルアップを行った。また月に1回のサークル内スキルアップ勉強会を行った。さらに FLAN の代表 (本石裕也君) が第6回日本学生 ALS 大会に実行委員として参加し、活動報告を行った。実際に蘇生の講師として活動するために長崎大学病院の事務と話し合い、長崎大学病院内ボランティアスタッフに対する BLS 講習会を平成24年8月に開催予定として準備を進めており、半年に1回程度の定期開催を予定している。また、日本学生 ALS 大会では、例年以上に科学的な取り組みの重要性が認識され、市民への心肺蘇生法の普及の意義と方法について検討した。

## D. 考察

今回の研究で、蘇生が必要な場面に遭遇したときに、小学生でも“自分ができることをしよう”とする意識を高めるために、小学生の間に蘇生に関する教育を開始する必要性が

あると示唆された。教育内容としては、AED アニメの視聴を含めた45分授業が効果的であることは、これまでの研究でも実証されてきたが、教育現場の実情を考え、インストラクターの育成や制度が固まるまでには、AEDを設置している学校への蘇生絵本の配布も効果的と考えられた。

昨年、全校生徒に蘇生講習会を行った中学校で、「AEDの日」の意味づけとして再度講習会を行ったところ、初回受講の1年生のみならず、再受講となった2年生、3年生にもインパクトが強かった。今後、「AEDの日」を大々的に広報し、それをきっかけに毎年蘇生法を受講するシステムを構築することは、効果的と考える。

医学生が蘇生法の講師を務めるには、モチベーションとシステム作りが重要である。これまで医学生同士でBLSの講習会を行ってきたグループは多いが、市民や小・中学生に対する講習会で講師を務めるには、内容の担保と講習会を行うノウハウを習得することが重要で、最初は医師が付き添って行う必要がある。しかし、課外活動として行う方式では、救急蘇生法を学ぶ側も講師側も十分な時間が取れず、年々継続して行うことも難しい。これら問題を克服する一つの方法として、双方の授業カリキュラムに組み込み計画的に実施することも考えられる。今後の検討課題である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし



## 資料 1、AED 普及用絵本 小学生のアンケート調査

### ① アンケート調査用紙

道を歩いていたら、目の前で人が苦しそうにしてたおれました。近くにだれもいませんが、あなたは‘けいたい電話’を持っています。ぼくたち、わたしたちにできること、することにすべて○をつけてください。

- ( ) ①119に電話して、救急車を呼ぶ。
- ( ) ②だれか大人を呼びに行く。
- ( ) ③AED（エーイーデー）を探して持ってくる。
- ( ) ④胸骨（きょうこつ）圧迫をする。
- ( ) ⑤AEDを使う
- ( ) ⑥何もしない

### ②アンケート結果

#### 絵本を読む前後でのアンケート結果 4年生

	読む前の 生徒(101人)	読んだ後の生 徒(98人)
①119に電話して、救急車を呼ぶ	92 (91.1%)	95 (96.9%)
②だれか大人を呼びに行く	91 (90.1%)	90 (91.8%)
③AEDを探して持ってくる	24 (23.8%)	66 (67.3%)
④胸骨を圧迫する	15 (14.9%)	38 (38.8%)
⑤AEDを使う	20 (19.8%)	44 (44.9%)
⑥何もしない	3 (3.0%)	0 (0%)

絵本を読む前後でのアンケート結果  
(5年生)

	読む前の 生徒(105人)	読んだ後の生 徒(98人)
①119に電話して、救急車を呼ぶ	96 (91.4%)	92 (93.9%)
②だれか大人を呼びに行く	98 (93.3%)	90 (91.8%)
③AEDを探して持ってくる	21 (20.0%)	49 (50.0%)
④胸骨を圧迫する	12 (11.4%)	29 (29.6%)
⑤AEDを使う	17 (16.2%)	36 (36.7%)
⑥何もしない	4 (3.8%)	6 (6.1%)

絵本を読む前後でのアンケート結果  
(6年生)

	読む前の 生徒(99人)	読んだ後の生 徒(137人)
①119に電話して、救急車を呼ぶ	90 (90.9%)	134 (97.8%)
②だれか大人を呼びに行く	87 (87.9%)	126 (92.0%)
③AEDを探して持ってくる	29 (29.3%)	90 (65.7%)
④胸骨を圧迫する	8 (8.1%)	46 (33.6%)
⑤AEDを使う	11 (11.1%)	25 (18.2%)
⑥何もしない	3 (3.0%)	0 (0%)

**絵本を読む前後でのアンケート結果  
(4～6年生)**

	読む前の 生徒(312人)	読んだ後の生 徒(334人)
①119に電話して、救急車を呼ぶ	278 (89.1%)	321 (96.1%)
②だれか大人を呼びに行く	276 (88.5%)	306 (91.6%)
③AEDを探して持ってくる	74 (23.7%)	205 (61.4%)
④胸骨を圧迫する	35 (11.2%)	113 (33.8%)
⑤AEDを使う	48 (15.4%)	105 (31.4%)
⑥何もしない	10 (3.2%)	6 (1.8%)

③蘇生45分授業 1か月後のアンケート調査結果 (平成20年度施行)

**<参考:蘇生45分授業1ヶ月後の  
アンケート結果>**

	A校(93人) <受講>	B校(105人) <未受講>
①119に電話して、救急車を呼ぶ	90 (96.8%)	98 (93.3%)
②だれか大人を呼びに行く	74 (79.6%)	88 (83.8%)
③AEDを探して持ってくる	54 (58.0%)	25 (23.8%)
④胸骨を圧迫する	59 (63.4%)	9 (8.6%)
⑤AEDを使う	42 (45.1%)	16 (15.2%)
⑥何もしない	0	3 (2.9%)

# ほけんだより

平成23年7月1日(金)

第4号

江平中学校 保健室

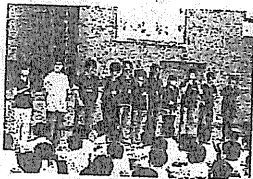
## 6月27日に学校保健委員会・ふれあいの会が行われました

今回も長崎大学病院 救命救急センターの長谷 敦子先生より、「いのちのバトン～君にもできることがあるよ～」というテーマで心肺蘇生法やAEDについての講演をしていただきました。

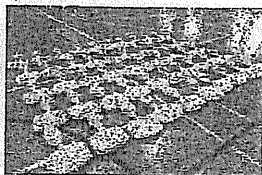
1・2・3年生の3人で1チームを作り、人形やAEDの練習キットを使って、みんなで協力しながら、真剣に取り組んでいました。

救急救命士の方や、9名の医学生の方も来られて、少人数のグループに渡し、分かりやすくご指導いただきました。

大雨の中、ご参加いただいた保護者の皆様も、どうもありがとうございました。



長谷先生、救急救命士、医学生のみなさん



出番を待つ50体の人形



先生の説明を真剣に聞いています



おれは片瀬星奈お花は久島向日葵

### みなさんの感想 (抜粋)

16才女の子の語はとても悲しかったです。AEDがあれば助かったかもしれない。でもおれ16才女の子の命は戻ってきません。こんな悲しい出来事が二度とないようにしたいです。(3-1 女子)

一番印象に残った語は、16才女の子のお話です。どんなに、たくさんの人達の声を聞いたり、大事な猫の声を聞いても、意識がもたらなかったと聞いてとてもかわしくなりました。その方のお母さんは一生懸命に覚えてください。今、私たちが使えるAEDがあります。だから、その方のために私がAEDを使って人を助けたいです。(1-1 女子)

..今は救急車が来るまでに一般の人でもAEDを使えるようになったから、助かる命が増えて良かったなあと思いました。もし、私がそういう場面に遭遇した時は、勇気を出したいと思いました。(3-1 女子)

7月1日がAED設置の日というのを初めて知りました。(3-1 男子・女子)

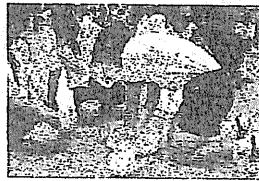
今日は初めて胸骨圧迫をして、最初ははずかしくて、出来ないと思っていたけど、途中、ビデオやアニメを見て、心臓マッサージを練習して、そこまではずかしくなくなると思い、出来ました。..本当に良い勉強ができたと思いました。(1-1 男子)

小学生のころAEDはあけてはいけないといわれていたので中に入っている器具、使用のし方を初めて見て学べたので、今日から人の命を助けることができるのでまだし方を知らない人に教えたいです。(1-1 女子)

私は小学生のときAEDを知りました。そのころは、ぜんぜんきょうみがなく、じょうもいとおもっていました。でも、今日じょうさいにやってみてじょうたいおほえとこうおもいました。(1-1 女子)

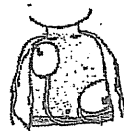
使い方が分からなかったけど、先生や先輩たちが教えてくださったのでよかったです。(1-1 女子)

DVDやアニメで、AEDが存在する理由について聞きました。AEDがあれば助かればかもしれない命を、たつた一瞬、一秒の遅れ、判断で救えないというのはとても悲しく後悔でいっぱいになると思います。..来年、もし、講習会があるとしたら、リーダーとして、下級生に教えていきます!!(2-2 女子)



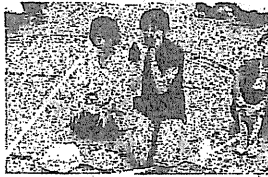
今日、心臓マッサージをしてみても、つかれてきて、だれかとこうたいするときに3秒以上(マッサージを)しなかったら、ためだと知りました。(1-1 男子)

救急車が来るまで、人の命を自分で左右するという言葉が心に残りました。..AEDの操作はかんたんそうに見えたけど、注意する事もたくさんあったので、その事も頭に入れて、いかせたらいいなと思います。(1-1 女子)



心臓マッサージは、1分間に100回すると聞いて驚きました。そんな心臓マッサージは、きついこととは思いませんでした。(1-1 男子)

協力をお願いします



周囲に知らせる

あなた、119に電話を  
あなた、AEDを...



1年と2年生と組んでやったので、「あなたは何をしてください!」の言葉をしっかりいうことができたから、もし本当に人がたおれたときにできないと自分で思いました。でも胸骨圧迫のやり方とかはわかったので、もし人がたおれていたら、周りの人に指示を出して人の命を救いたいです。その時は、「あなたは何をしてください」の言葉をしっかり言いたいと思いました。(2-1 女子)

人がたおれていたら、まず、意識をかくにんして、意識がないと119に電話し、AEDを持ってくる。救急車が来るまで胸骨圧迫をし、5cmくらいまで人より強く押し、しっかり戻すを休むことなく続けると、死ぬリスクは減るんだなあと思いました。

(2-1 男子)

119番に電話中



1年生の時に分からなかったことが分かりました。例えば本物のAEDの使い方がAEDを使う人は必ず講習会を受けていなければならないということ。そしてもう中学2年生なので、もしも倒れている人がいたら、今日の講話を生かして一人でも多くの人を助けたいです。

(2-1 男子)

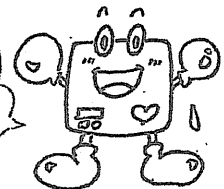
一人の命を救うということは、その先につながる命を救うということにもなるので、命を救うということは、素晴らしいことだと実感することができました。

(2-1 女子)

胸骨圧迫は、間をあけると生死にかかわるので続けて圧迫するのはとてもきつかったです。(2-2 男子)

胸骨圧迫は、スピードと力加減が難しかったです。... 今日あらためてすごいなーと思ったことは、AEDの機能です。あんなパラパラのシールで心臓の動きも認識できることを知って、おどろきました。(2-2 女子)

ありがとうの  
照れるなあ

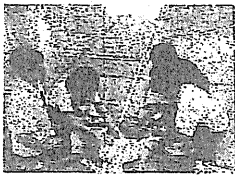


最初から最後まで、去年のことを思い出しながら、がんばりできました。去年より上達した気分になりました。(2-2 女子)

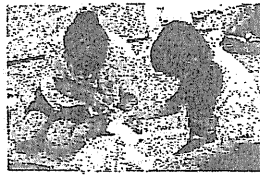
全然思い出せなくて、ちあとだめだったけど、ていねいにやさしく教えてくれたので、どんどん思い出してきました。途中手が痛くなって かわらばらばらしたときもありました。(2-2 男子)

1人でやるのではなく、2-3人で役割を決めてやる方がスムーズにできると知りました。もっと上手にできるようにになりたいです。(2-2 女子)

本物のAEDが  
きました



パッドを装着します



私は3回目なので、使い方がもっと深まりました。1年生は初めてなのに、積極的に参加して、的確に指示していて、すごいなと思いました。(3-1 女子)

今までは、自分の目の前で人が倒れることはないといい、そこでしんげんに行っていたからだけど、いざの時のことを考えて、今日、充実した練習ができたので本当にこの機会があったら、しんげんに行きたいと思います。(3-1 男子)

胸骨圧迫のとき、音があまりならず困っていたら長崎大学の人に教えてもらってやることができました。まず、ひじを伸ばすこと、手を押す場所によってできることが分かりました。

(3-1 女子)

自分や仲間の身にこんな事がおきたら戸惑ってなにもしないかもしれない...と思いました。

でも、今はAEDのことや胸骨圧迫を学んだので自信が持てました。ありがとうございます。(3-1 女子)

「命のバトン」のDVDでは、命の大切さ、AEDの重要性、そして助けてあげられる勇気が必要だということや、とても伝わりました。勇気をもって助けられたいなと思いました。(3-1 女子)

僕は、今日、人を助ける事ができる方法をしっかりと学べたので「よかった」です。

これから、こういう事をしっかりと学んでいきたいです。(3-1 男子)

おぼさんの感想を読んでみると、人の命を助けたいという気持ちにたいへん共感しました。

資料3

## 第6回 日本学生ALS大会

平成24年3月1日

千葉幕張メッセ



THE 6TH  
ANNUAL MEETING OF

Japan Inter-College

ALS

Meeting

第6回 日本学生ALS大会

2012.3.1 (THU)  
13:00~17:00

千葉幕張メッセ



主催：第6回日本学生ALS大会実行委員会  
後援：第39会日本集中医療学術集会



# The 6th Annual Meeting of Japan Inter- ALS

## 目次

- 03 はじめに
- 04 TimeTable
- 05 第6回日本学生ALS大会 実行委員・タスク・コンセンサス効果検証委員一覧
- 06 FAQ 作成報告
- 10 第6回 JICAM 実行委員会によるテーマディスカッション
  - テーマディスカッションを行うにあたって
  - テーマ1 「科学的、芸術的とはどういう事か？」
  - テーマ2 「WSのゴールとは？」
  - テーマ3 「JICAM コンセンサス 2011【普及と教育】」
  - テーマ4 「学生ALSワークショップのさらなる発展のために—デブリーフィングのすすめ—」
  - テーマ5 「デブリーフィングの具体例は？」
  - テーマ6 「市民への心肺蘇生法の普及の意義と方法について」
- 30 2011年度学生ALSワークショップに関わった医系学生の意識調査
- 43 当日の様子

第6回日本学生ALS大会は、平成23年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究（H21-心筋-一般-001）」（研究代表者：丸川 征四郎）の研究費の支援のもとに行われた。

# College Meeting

## はじめに

日本学生 ALS 大会 Japan Inter-College ALS Meeting (以下、JICAM) は、丸川征四郎教授 (当時) と坂本哲也教授の全面的ご支援と日本集中治療医学会学術集会のご後援により、神戸にて 2007 年 3 月に第 1 回大会が開催されました。以降、第 2 回大会 (東京)、第 3 回大会 (大阪)、第 4 回大会 (広島)、第 5 回大会 (横浜) と日本集中治療医学会学術集会に合わせ、その最終日に同学術集会の後援のもとで開催されてきました。この間、JICAM は救急医学・蘇生科学に関する勉強会や学生ワークショップに関わる全国の医系学生が年に一度集い、情報交換や交流を深める場として機能してきました。

そして今回、第 39 回日本集中治療医学会学術集会会長である福家伸夫先生と日本学生 ALS 大会顧問である丸川征四郎先生のご支援と同学術集会のご後援のもと、第 6 回大会を開催することができました。ご支援、ご協力くださった皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2010 年、日本蘇生協議会 (JRC) と日本救急医療財団で構成するガイドライン作成合同委員会により、JRC 蘇生ガイドライン 2010 (以下、JRC2010) が発表されました。これを受け、JICAM では 2011 年 2 月 26 日の第 5 回大会に合わせて、JICAM 全国統一学生コンセンサス策定委員会を中心に、JICAM コンセンサス 2011 を策定および発表しました。しかし、JICAM コンセンサス 2011 の作成段階では JRC G2010 はドラフト版であり、その後のガイドライン変更の可能性や、JRC G2010 への移行において様々な問題や疑問が生じる可能性が考えられました。こうした諸問題に対応するため、JICAM では JICAM コンセンサス効果検証委員会を設立し、JICAM コンセンサス 2011 を参考にした学生 ALS ワークショップを対象にアンケート調査を実施しました。その後のアンケート結果に対する検討から、アンケートより抽出された疑問点・問題点に関し、改善策を提示していくことが必要と考えられました。そこで、今回の第 6 回大会では、学生 ALS ワークショップに関わる疑問点や問題点の解決策を、教授システム学を参考にしながら検討することとしました。尚、今回の第 6 回大会では、準備段階より顧問である丸川征四郎先生および東京慈恵会医科大学 松本尚浩先生に多大なるご協力を賜りました。また、大会当日は本大会の創設者の一人である帝京大学 坂本哲也教授にも足を運んで頂きました。先生方にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本大会では、現在医系学生が抱えている疑問や問題を全国規模で調査し、共有、解決策を検討しました。本大会を通して、JICAM が「点」ではなく「線」として機能し、継続して私達の活動の価値やその効果を考える機会となればと願っております。

2012 年 3 月吉日

*Let's solve our problem.*

第 6 回日本学生 ALS 大会 代表  
大塚 真美

(愛知医科大学医学部医学科 第 4 学年)

## JICAM 6th タイムテーブル

12:30 ~ 12:45	参加者集合
12:45 ~ 13:00	事前アンケート記入
13:00 ~ 13:05	開会の挨拶 JICAM コンセンサス効果検証委員会からの報告
13:05 ~ 13:35	テーマ 1
13:35 ~ 14:05	テーマ 2
14:05 ~ 14:15	休憩
14:15 ~ 14:45	テーマ 3
14:45 ~ 15:15	テーマ 4
15:15 ~ 15:25	休憩
15:25 ~ 15:55	テーマ 5
15:55 ~ 16:25	テーマ 6
16:35 ~ 16:50	先生からのお言葉
16:50 ~ 16:55	閉会の挨拶・アンケート結果開示
16:55 ~ 17:00	写真撮影

